

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470600170	事業の開始年月日	平成11年9月11日	
		指定年月日	平成26年4月1日	
法人名	社会福祉法人 同愛会			
事業所名	グループホーム RAKU			
所在地	(〒240-0051) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区上菅田町1352-24			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成27年12月15日	評価結果 市町村受理日	平成28年2月17日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・思いのまま…穏やかに最期まで過ごし、暮らしていただける場所であるよう努めています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成28年1月13日	評価機関 評価決定日	平成28年2月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇利用者に寄り添ったケアの実践 ・理念の主旨「五感を大切に、その人らしい生活を支える」に則り、職員は利用者の人となり大切に、睡眠や食事などでは時間にとらわれず、その人の思うがまま自由な生活ができるよう支援している。 ・利用者の思いや意向を、職員間の日常の会話や月に1度のケース会議で共有し、利用者にはどの職員も同じように接している。 ◇地域との連携の積極化 ・自治会を中心に地域との連携ができており、ドント焼き、餅つき、花火大会のイベントに利用者が参加したり、防災訓練や草刈等の行事には職員が出席している。また、事業所の避難訓練には地域からの参加があり、利用者の誘導を地域の方をお願いしている。 【事業所が工夫している点】 ◇利用者家族との連携 ・家族会を年2回開催しており、9家族中8家族が参加している。家族会では利用者の生活の様子を報告し、介護保険の改定に関するタイムリーな説明や事業所での看取り事例の報告等を行っている。 ・各種のイベントなど事業所の利用者に対する対応には、家族も協力している、</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム RAKU
ユニット名	-

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさを尊重し活かせるよう、朝、夕の申し送り等で情報共有をし日々のケアに活かせるよう努めている。	・理念は「五感を大切に、その人らしい生活を支える」を主旨とし、職員が目につくよう事務室に掲示している。 ・職員一人一人が理念の実践に当たっての目標を定め、6か月ごとに見直している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出来る限り参加するよう努めているが…季節ごとのお付き合いになっている。	・自治会に加入しており、地域のドンド焼きや餅つき、花火大会等には利用者と共に参加している。 ・自治会の防災訓練や草刈に、職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトを開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。	・運営推進会議は併設の小規模多機能施設と合同で2か月毎に開催している。在宅クリニックからメンバーとして参加があり、利用者の情報についての報告がある。 ・事業所のイベントにはメンバーが自主的に手伝ってくれている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、認知症ネットワーク、もろもろの活動時に連携をとっている。	・運営推進会議に参加する社会福祉協議会、地域包括センターの職員とは、その都度意見交換している。 ・保土ヶ谷区高齢・障害支援課の主催する研修に、講師の依頼があり、管理者が認知症のケアについての講義を行った。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行なっていないが、施錠に関しては、ガラスを割って侵入未遂があった為 警察の指導もあり施錠している。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営規程に身体拘束禁止を定めて、職員に周知している。 ・職員は、県社会福祉協議会主催の身体拘束に関する研修に出席して、ケース会議で報告を行った。 ・日常のケアでは、利用者と親しくなりすぎて、注意が散漫にならないよう気をつけている。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し会議内にて報告しながら周知につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	努めているが…成年後見制度にかんしては一部の職員のみになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・退去時・面談を行ない、訪問時に関しては日々の状況を報告するよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	努めるよう心がけているが…活かされていない事もあると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会を年2回開催している。今年度は、1回を家族との面談会とし、利用者の1日の生活を中心に意見交換をしている。 ・スタッフについての意見や要望は本人に伝え、全体に関することはケース会議の議題として取り上げて対応している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の勤務中、ケース会議内にて機会を設けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のケース会議（職員会議）で職員の意見を聞いている。 ・ケース会議で話し合い、ケアプランの項目を分かりやすく改訂したり、利用者の相性で席を決め、車椅子の利用者にクッションの入れ方を共有する等の変更を行った。 	・職員のリフレッシュ休暇の取得等、職員の希要望に添える体制作りが望まれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力はしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	行なっている。外部からの研修受け入れや、勉強会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を収集し、馴染みの関係になれるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問時に話をしたり…連携を取り合えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	馴染んでいただけるよう様子を見ながら、ご家族にも協力頂きながら支援できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々 努力し職員間の情報を共有し関係づくりに活かしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域の行事に参加したり訪問して下さったり。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族同伴で馴染みの寿司屋での誕生会を行うなど、馴染みの場との関係の継続に努めている。 ・地域の祭りなどに参加して、幼馴染みの人と交歓を行っている利用者もいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状況を把握し、職員が交わりレクリエーションを行ったり、入居者さん同士で職員への不満を言い合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも、1年に数回 来訪して下さるご家族がいらっしゃる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	行なっている。	・利用者の思いや意向は日常会話や利用者の行動・動作から把握している。表現困難者からは、声のトーンや顔つきなどから汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々な状態にあわせ都度、気づきシートを記入したり、朝・夕の申し送りでの情報共有を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。ケアプラン作成時に全職員の気づきシートを提出し、様々な視点からの情報を取り入れる。	・ケース会議で利用者の気づきシートからモニタリングを行い、家族の希望を聞いて、ケアプランを作成している。ケアプランの有効期間は長期6か月、短期3か月のとしている。体調の変化時には、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時に公共の機関を利用したり、地域の床屋さんに出かけたり。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	・慢性病など一部の医療では、かかりつけ医の受診を支援しているが、利用者と家族の同意を得て事業所の協力医と契約している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医・看護師・情報共有 できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医・医療相談員と連携し協力していただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化や終末期に向けた事業所の方針は、重要事項説明書に明記しており、利用者の入居時に家族に説明し同意を得ている。 ・家族会で管理者が、看取りの事例を基に事業所ができる範囲について説明し、方針を共有している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1度 研修をおこなっているが…活かしきれていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	想定訓練に参加いただいたり、近所の方に聞えるように防犯ベルがついた。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練には近隣住民が参加し、利用者の誘導をお願いしている。参加者から災害時、建屋内の様子が外からわからないとの意見があり、非常用のベルを設置した。 ・災害用備蓄品は倉庫で保管し、リスト化して管理している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努力しているが…職員配置等で疲れが出ると感情が出てしまうときもある。	・職員は権利擁護の研修を受け、利用者と慣れ合いにならないように、一人一人を尊重した対応を心掛け、日々振り返りを行っている。 ・申し送り時には利用者を名前でなく部屋番号で行い、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努めているが…入浴等があるときは、こちらの都合になる時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみ。共におこなう。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員がつくっている。食事前のテーブル拭き、下膳などやりたい時に手伝ってくださる。「もうこの年になったら作りたくない…」と話される方もいるので。	・栄養士が利用者の好みを把握し献立を作り、スタッフが調理して、利用者と一緒に会話しながら食事をしている。 ・誕生日には本人の希望に応え、行事には煮物、刺身てんぷらなどの懐石風弁当などを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がいるため、栄養バランスの工夫 ミキサー食 刻み食など、一人ひとりに合わせた食事をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行なっている。歯間ブラシ・口腔スポンジ・口腔ウエットなどを状態にあわせて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	肌の弱い方には日中 布パンツで対応、立位が取れない方へも…トイレに座って頂き尿意を促している。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の排泄リズムを把握して声掛けし、トイレでの排泄を支援している。 夜間の下着の交換状況を、申し送りに記録して、排泄の自立に向けた支援を行っている。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食のご飯に寒天をいれ食物繊維を自然に摂取できるよう、起床時の牛乳や、散歩、腹部マッサージやホットタオルでの肛門周辺のマッサージで排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1週間に2度 入浴日がある。個々の状況に合わせて入浴にお誘いしている。	<ul style="list-style-type: none"> 週2回10：30から16：30の間で入浴し、リフト浴にも対応している。 利用者は職員と一緒に歌を歌ったり、話をしてゆったりとくつろいで入っている。 季節にはゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の意向に合わせ、入りたいとき入浴できるよう支援したいとの思いが、実現されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のタイミングにあわせて支援している。適度な疲労感や、室内の温度、湯たんぽの使用など		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。主治医・看護師と連携が取れていて、必要最低限の内服薬になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	努力はしているが…難しい時もある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・気候の良い日は、ほぼ毎日近隣を車いすの方も一緒に散歩している。 ・桜や紅葉、季節の花をドライブで楽しんでいる。 ・ファミリーレストランに外出に出かけることもある。家族と外食や墓参りに行く利用者もいる。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方がいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングは毎朝換気を行い、加湿器で湿度を管理している。行事の写真や利用者の作品を飾り、居心地の良い環境になっている。 ・利用者は日中は全員リビングで話を楽しんだり、テレビを見たりして過ごしている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静かに過ごせる場所、休める場所を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の家具・家族の写真・作成したものなどがおかれている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は、居室にカーテンやベッド、使い慣れた家具、テレビなどを持ち込み、家族の写真を飾り、居心地良く過ごすよう工夫している。 ・職員と一緒に居室のモップかけをする利用者もいる。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。表札や、大きな表示にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム RAKU

作成日 平成28年2月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	11	リフレッシュ休暇を取りたい、と職員から要望があるが、取組めていない。	1年のスパンの中で-- 職員の休暇を取り入れるシステムを作る。 職員間で協力して勤務に入れるようにする。	毎月の会議内での啓蒙・周知し、職員全員で取りくむ。	3～6か月
2	45	週に2回の入浴状況は、職員配置に合わせた入浴回数になっている。	利用者が入りたいときに、入浴ができるように取り組みたい。	利用者個々の生活時間を把握すること。業務の内容・時間の修正をしている。	3～6か月
3					
4					
5					